

地域連携センターだより第10号

事務局 研究・地域連携担当
内線 2152 E-mail edec@spu.ac.jp

本センターでは、本学の教育資源や研究成果を地域・社会に還元するため「オープンカレッジ講座（公開講座）」や「大学の講義の地域への開放」などの地域貢献事業を行っています。また、本学の教員の地域活動だけではなく、学生の地域活動への参加の支援も行っています。

地域貢献事業、地域活動と聞くと、1度だけの「点」での活動のイメージが強いですが、それらの活動を経て、どう変化したかという「線」としての成果を、本号では取り上げたいと思います。

オープンカレッジ 教員の専門性を生かした、多彩なオープンカレッジ

本学の教員の知見を生かした保健医療福祉に関する講座を今年度も多数開催しました。一般の方向けに自分自身の健康維持・増進を目的とした「**肩の健康を守る～日常生活でできる肩ケアの秘訣～**（写真右）」（理学療法学科 村田健児准教授）や「**外反母趾の予防と保存療法～手術しないで治せるのか？～**」（理学療法学科 清水新悟助教）を開催しました。



また、小中学生や高校生を対象とした講座を7月～8月の夏休み期間に開催しています。

高校生向けには、「**ヒトの動作を診る：歩行からスポーツ動作まで**」（理学療法学科 国分貴徳准教授）、



「**SPU★ナーシング～看護師を目指す高校生のためのオープンカレッジ～**（写真左）」（看護学科 山口乃生子教授、齋藤恵子教授、東口晴菜助手）を開催し、「オープンキャンパスではできなかったことが体験でき、看護職により魅力を感じた」といった参加者からの声が寄せられました。

小中学生を対象とした講座では、「**『はやぶさ 2』探査から探る地球と生命の進化**」（共通教育科 小松睦美准教授）、「**生命科学体験講座**」（検査技術科学専攻 安藤克己准教授、矢野哲也准教授、井原寛子教授）、「**3Dプリンタを使ってみよう**」（作業療法学科 小池祐士准教授、押野修司准教授、久保田富夫教授、笹尾久美子准教授）、「**運動機能を向上させるインソールパッドの体験**」（理学療法学科 清水新悟助教）、「**自分の走りを分析して高めよう！**（写真右）」（共通教育科 八十島崇准教授）といった教員の専門性を活かした多彩な講座を開催。このうち、小学生を対象とする5つの講座では、約1,000名の応募がありました。受講者のアンケートには「分析が楽しかった」「魚にも人と同じ臓器があることに驚いた」といった声が寄せられ、知的好奇心の高まりが感じられました。



今年度で2回目の開催となる、「自分の走りを分析して高めよう！」に昨年度参加された受講者が、本講座で学んだことをさらに探究したものが、令和5年度第18回筑波大学朝永振一郎記念「科学の芽」賞（小学生部門）で受賞しました。こちらの内容を含む、『もっと知りたい！「科学の芽」の世界 PART 9』が2024年6月に書籍化されています。受講者の応募内容などは、筑波大学のホームページでもご覧いただけます。



学生の地域活動

学生の想いやアイデアを地域に発信

地域連携センターが関わらせていただいた学生の参加イベントについてご紹介します。

昨年度に引き続き、『**開放特許を活用した学生アイデア発表会 in 埼玉**』（主催：一般社団法人さいしんコラボ産学官）には4チーム15名、『**第13回学生政策提案フォーラム in さいたま**』（主催：大学コンソーシアムさいたま、さいたま市）には1チーム4名、『**第9回かすかベビジネスプランコンテスト**』（主催：春日部市／春日部商工会議所ほか）には1チーム4名と個人参加の1名と、本学から多くの学生が参加しました。各イベントの概要や結果は本学ホームページに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

また、今年度は隔年開催である『**第7回越谷市学生議会**』（主催：越谷市議会）が開催され、4名の学生が参加しました。現役の越谷市議会議員にサポートいただきながら、「小中学校における生理用品の設置」「越谷市における熱中症対策」「越谷市における高齢者支援」「高齢者への情報提供格差及びボランティア活動支援」といった内容について、一般質問を行いました。学生議会の様子は、越谷市議会のホームページでもご覧いただくことができます。



参加学生は、日ごろの大学での学びやサークル活動、課外活動を通じて感じた疑問や課題を、学生議会に参加することで広く認知してもらうことができたと思います。また、過去に学生議会に参加した卒業生が行政職につくなど、大学の地域活動は学生の生活とも繋がっています。

地域連携

大学の講義を地域の皆様に開放しています

埼玉県では、県内在住の55歳以上の方を対象に、生活の充実や社会参加のきっかけづくりとして実施する『**大学の開放授業講座**』に本学も協力し、前期3講座（公的扶助論、高齢者福祉論、生活と障害）、後期4講座（文化人類学、保育内容「人間関係」の指導法、ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ）を開放しています。

また、本学の事業として、本学の教育内容に対する理解を深めてもらい、主体的、創造的な学習態度の育成と学習機会の拡大のため、『**高校生向け開放授業**』を行っています。前期3講座（教育学Ⅰ、生活環境学、臨床検査概論）、後期4講座（文化人類学、哲学、社会福祉の原理と政策Ⅰ、老年看護学Ⅰ）で高校生を受け入れ、前期後期合わせ48名の高校生にお申込みをいただきました。

本学への入学へのモチベーションにもなっているようで、昨年度本事業に参加し、入学した学生さんに当時の印象を聞いてみました（右枠内）。

【高校時代に開放授業に参加した学生さんからの感想】

私は、県立大学の受験を考えていたので、大学の雰囲気を知りたくて開放授業を受講しました。

講義で聞く内容は、知らないことばかりで毎回驚きがあり楽しかったです。大学の講義のイメージは先生が一方的に話すものかと思っていましたが、実際に受講してみると、先生が学生に問いかける場面やグループワークも多かったです。私はオンラインでの受講でしたが、明るい雰囲気が伝わってきました。先生と学生の距離が近く話しやすい環境が魅力的で、県立大学で学びたいという思いが強まり、受験のモチベーションにも繋がりました。

入学して同じ講義を受講しましたが、より理解を深めることができました。